**２－２　省エネルギー計算**

全体の説明。導入予定設備がどのように省エネ効果を発揮するかを文章で記述すること

補助対象設備の範囲が明確にわかるように記入すること

ｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖｖ

２－２－１　導入省エネルギー設備の機能、仕様、機構図、システム図　等

※以下、各項目について適宜図面等を使用して、設備・仕様、機構、台数等を具体的に記述する。

※２－５「既存設備と導入設備の比較表」に記載した仕様と整合させること。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

・高効率熱交換設備

別図○○参照

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

・高効率ボイラー設備　　　　　　　5000kW級×１基　　　別図○○参照

　　　　　　　　　　　　　　　　発電効率　　　％　、裕度(安全率)　　　％

　　　　　　　　　　　　　　　　熱効率　　　　％　、裕度(安全率)　　　％

　　　　　　　　　　　　　　　　総合効率　　　％　、裕度(安全率)　　　％

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

導入予定設備の構成が複雑な場合に、各々の設備を模式化して、熱量やエネルギーの流れをわかりやすく記載した図面を添付すること

　　　・システム図　　別図○○参照（別図で添付）

２－２－２　導入する設備の能力の根拠

※２－５「既存設備と導入設備の比較表」の内容を踏まえて、２－２－１に記載した導入設備の能力がなぜ必要か、必要により別図等を使用して説明すること。

例：更新するボイラーの蒸発量は、事業前1．3t/hに対し、現在の工場の稼働状況が○○○○であるので、事業後1．5t/hである。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

・導入予定設備が、既存設備の能力・出力を超えてもよいが、将来用設備、兼用設備、予備設備でないことを説明すること

・同一機器(補機等も含む)を複数台申請する場合は、複数台必要の根拠を導入前と比較して説明すること

(理由無き場合は補助対象外として計上すること。)

２－２－３　省エネルギー効果

計算結果を先に記載する

（１）省エネルギー量の算出根拠

※「エネルギー使用量の原油換算表」の数値と一致させること。

※それぞれのエネルギー使用量の増減を、計算に用いた定数や式等を具体的に示して、出来るだけ

詳しく記入すること。

①事業場の省エネルギー量 ○○○.○ｋｌ／年　省エネルギー率 ○.○％　(裕度(安全率)○％を考慮)

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

・省エネルギー量の根拠、計算の前提となる数値、単位及び式等を具体的に示して記入する

　計算結果のみの記載は不可

・電卓で計算過程を追えるようなものにすること

・省エネルギー効果が区別できるアイテムに関しては別々に記述し、それぞれの省エネ効果が

　分かるように記述すること

・事業終了後の省エネルギー効果の検証が容易に行えるよう工夫すること

・国際単位系（SI）で記載すること。特に熱量はジュール（J）を使用すること

・燃料の削減量を算出し、「エネルギー使用量の原油換算表」に反映させる

・設備性能の裕度（安全率）を考慮して省エネ計算を行うこと

・裕度（安全率）の理由を簡潔に記載のこと

・生産量や稼働時間等を、単に減らすだけの省エネ量を計算に入れないこと生産量や稼働時間等が減る見込みの場合は、過去の実績年度と同条件として計算する

・参考見積で記載された機器の仕様により計算する場合は、メーカー指定とならないよう

　参考値であることを明記する

・旧設備の消費エネルギー量に、経年劣化を理由とした補正計算を加えないこと

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

既存設備、導入予定設備の仕様の証憑も添付すること

（２）省エネルギー計算に使用した数値の根拠（別添○）

※使用する数字の妥当性を確認し、説明もしくは添付すること。

※実測値等をもとに効果を算出している場合はその計測結果を、説明もしくは添付すること。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

導入前のベースデータは、

実測値をもとにすること

　　　（３）事業導入後の省エネルギー効果の実測方法、確認方法

※申請時の省エネ効果計算ではなく、実測データを元にした確認方法を説明すること。

例１：分電盤の回路に個別に測定用のメーターを設置し、電気使用量の実績を計測する。

例２：照明設置後、種類別に消費電力の瞬時値を測定し、これに実際の使用時間（今後部屋ごと等に管理予定）をかけることで、実績ベースの電気使用量を算出する。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

エネルギー使用量の実績の計測は、事業場全体だけでなく、対象事業によって導入した設備のみでどれだけ使用しているのか、必ず計測もしくは計測値の差引などによる算出が出来るように計画すること